亀山殿七百首

夜蛍　侍従中納言

きえやすき思ひなるらし夏の夜の
　みじかきほどにもゆる蛍は

橋蛍　御製

夏のよはとぶや蛍の玉ちりて
　をだえの橋に乱行くらむ

水上蛍　中御門前大納言

水くらきあし間にすだく夏虫は
　おのれもえてや夜を知るらん

池蛍　中納言入道

見れば又うつろふ影もひろ沢の
池の玉もにとぶ蛍かな

江蛍　御製

あし火たくけぶりは見えず難波がた
入江のなみをやく蛍かな

沢蛍　富小路前中納言

とぶ蛍沢べの水にうつればや
もえても影の涼しかるらん

浦蛍　六条前中納言

海士のたく浦のあし火の夜る夜るは
浪にもゆるや蛍なるらん

草蛍　源三位

夜もすがらすだく蛍のひかりにて
草ばの露の数やみゆらん

蛍似露　為定朝臣

とぶ蛍きえずはありとも人とはば
野原の露と猶やこたへん

蛍似玉　忠守朝臣

伊勢の海や清き渚の夕浪に
ひろはぬ玉は蛍なりけり

「国歌大観」より